キャラクター名
曙　青春（あけぼの　あおはる）

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ウロボロス	**ワークス**	UGNチルドレンC	**カヴァー**	中学生
オプショナル		**年齢**	13	**性別**	男
覚醒	忘却	**衝動**	飢餓	**初期侵食率**	34 %
出自	天涯孤独	**経験**	平凡への反発	**邂逅**	いいひと（谷修成）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	2			8
社会	1	0	0			1

HP	30
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**	**技能**	**SL**	**修正**
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉	2	
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	**能力**	**命中値**	**G値**	**攻撃力**	**射程**	**メモ**
嘘から出たまこと（グラフティ・ニヒリティ）	交渉	8r+2		10		マイナー後
	交渉	11r+2		13		マイナー後

防具	**価格**	**装甲**	**回避**	**行動**	**メモ**

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

思い出の一品	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
賢者の石	P	N		
谷修成	P　慕情	N　嫌悪		
N支部のみんな	P　執着	N 疎外感		
エンプティ・エンヴィ	P　尽力	N　脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：	0

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-Lv（下限7）							
無業の影	1	4	メジャー	-	-	-	-	
効果：	EA124、組み合わせを【精神】にする。							
神機妙算	1	3	メジャー	-	範囲（選択）	-	80	
効果：	RW40、組み合わせを範囲（選択）にする。							
原初の黒：リミットリリース	1	6+2	オート	至近	自身	自動	100	
効果：	EA78、判定を行う直前に使用。C値-1（下限5）							
原初の青：形状変化：剛	3	3+1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	EA67、そのシーンの間の攻撃力+［Lv×2］。この効果はオートで終了する。							
言葉の刃	4	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果：	EA90、攻撃力+Lv、装甲無視							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

生まれたころかUGNにいるUGNチルドレン。
幼少期はノイマンピュアで物覚えが早く、最初は優等生だった。
しかし、年齢を重ねるにつれて能力の伸びが悪くなり、気が付けばあっという間に劣等生。

他の優秀なチルドレンに注目が行く中で、青春は「嘘」をつくことで周りの視線を引こうとした。
自分の能力への過大評価、ありもしない武勇伝、誤った任務報告などなど…。
ただでさえ能力のない青春の評価は劣等生から問題児へと変更される。
そんな現状に対して青春は自分自身にも「嘘」を重ねた。
日記にはいつも「今日も楽しかった！」「大活躍した！」「褒められた！」と書き連ね、違う自分を作り上げていった。
その作り話はまるで本当にあったことのようにリアルで幸せでそうでありたいとずっと願っていた。

そしてそんな生活が何年か続いたある日。ついにその願いは叶う。
もうひとりの青春がそこに生まれた。青春の影がひとりでに動いて、青春の言った「嘘」を「本当」になるように実行するようになった。
ウロボロスの能力に目覚めたのだ。

「やっぱり自分は劣等生なんかじゃなかった！こうなるってずっと知ってた！」
そう喜び、UGNのみんなにそれを伝える。
でもその時には、誰も青春の言葉を信じてくれる人なんて残っていなかった。

戦闘スタイルは以前までは「言葉の刃」で嘘をつき、その隙に殴るというものだったが、
ウロボロスに目覚めてからはそのあとに青春の影が伸び、その「嘘」を「本当」にする。